

宮崎市郡医師会病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。いつでも本研究への参加を拒否することが可能です。

研究課題名 (研究番号)	総大腿動脈の動脈硬化性病変に対する編み込み型ナイチノールステントを用いた血管内治療の後ろ向き実態調査 (The Bst endovascular therapy with interwoven-Designed nitinol stent backUp strategy for Common Femoral Artery disease : BURDOCK-CFA 試験)
当院の研究責任者 (所属)	緒方 健二 (循環器内科)
他の研究機関および各施設の研究責任者	<p>< 研究代表施設 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台厚生病院 堀江和紀 <p>< 共同研究施設 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 坂総合病院 佐々木伸也 ・ 船橋市立医療センター 岩田曜 ・ 東京ベイ・浦安市川医療センター 仲間達也 ・ 東京都済生会中央病院 藤村直樹 ・ 上尾中央総合病院 新谷嘉章 ・ 国保旭中央病院 早川直樹 ・ 大和成和病院 土井尻達紀 ・ 湘南鎌倉総合病院 飛田一樹 ・ 総合高津中央病院 高木友誠 ・ 大垣市民病院 吉岡直輝 ・ 岸和田徳洲会病院 藤原昌彦 ・ 京都第二赤十字病院 椿本恵則 ・ 宮崎市郡医師会病院 緒方健二
本研究の目的	<p>大動脈大腿領域および大腿膝窩動脈領域における症候性下肢閉塞性動脈硬化症への血管内治療の適応は拡大傾向にあります。しかし総大腿動脈はステントを留置後に破断する頻度が多く、外科的治療が第一選択でした。</p> <p>しかし近年では患者さんが高齢化し、並存疾患や歩行困難などの理由から外科的治療が困難なことが少なくありません。さらに破断しにくい新規デザインのナイチノールステント (IWS) の開発により、総大腿病変に血管内治療を施行される機会は全世界で増加しつつあります。本邦でも IWS が 2018 年に保険償還され、同様の治療傾向が確認されております。つきましては新規デバイス時代における症候性総大腿動脈病変に対して IWS を留置した症例を後ろ向きに検討し、本邦におけるその有効性・安全性を検討する目的で本臨床研究を実施いたしました。</p> <p>本研究は通常の診療で得られた情報を対象とする観察研究で、当院を含み複数施設にて実施します。</p>
調査データ 該当期間	研究期間は院長許可後～2021年12月末日までを予定しています。
研究の方法 (使用する試料等)	多施設共同後ろ向き試験
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	収集された情報は研究代表施設である仙台厚生病院に電子媒体で送付されます。本研究では試料は使用しません。
個人情報の取り扱い	このとき、送付されるデータにはパスワードを設定します。送付されるデータに個人を

	特定するような情報は含まれません。
本研究の資金源 (利益相反)	なし
お問い合わせ先	<当院の研究責任者> 緒方 健二 宮崎市郡医師会病院 循環器内科 〒880-2102 宮崎県宮崎市有田 1173 TEL : 0985-77-9101 FAX : 0985-77-9121
備考	